

Structure Kansai No.25 '89.11

(社)日本建築構造技術者協会関西支部設立総会開催

周知の通り今年7月1日付で構造家懇談会は(社)日本建築構造技術者協会として発足した。関西支部では(社)日本建築構造技術者協会関西支部の設立総会と構造家懇談会関西支部の解散式が行われた。総会では、本部から矢野会長の出席を仰ぎ関西支部設立に祝辞をいただいたあと、議案の審議にうつり満場一致で採択された。最後にJSCA構造家賞の表彰があり、(株)アスコラル構造研究所の村沢藤四男氏と外村静夫氏の2名が選ばれた。総会終了後の設立講演会ではエッフェル塔100周年にちなんで、原、金多両先生による「塔」をテーマに講演が催された。引き続き設立披露パーティが盛大に挙行され記念行事の幕を閉じた。

●設立総会

日時 平成元年9月25日 15:00~15:50
場所 東洋ホテル 菊の間
出席者 65名
司会 俣野 博氏
議長 斎藤幸男氏
議題 経過報告、構造家懇談会関西支部解散、支部規定の制定、支部役員の選出、支部事業計画、支部予算計画、JSCA関西構造家賞表彰

●設立記念講演会

日時 平成元年9月25日 16:00~18:00
場所 東洋ホテル 葵の間
出席者 79名
講演 「塔の思想」
東京大学生産技術研究所 原 広司教授
「塔のテクノロジー」
京都大学 金多 潔教授

●設立披露パーティ

日時 平成元年9月25日 18:00~20:00
場所 東洋ホテル 大淀の間
司会 青柳 司氏
出席者 101名
来賓 (順不同、敬称略)
藤川 和孝(大阪府建築部参事)
盛尾 久和(大阪府建築部指導課)
本郷 聡(大阪市建築指導部長)
奥尾 光佑(大阪市建築指導部審査課長)
坂平 哲也(大阪市建築指導部審査課)
佐野 正一(日本建築協会)
井上 豊(日本建築学会近畿支部大阪大学教授)
塚本 猛次(大阪建築士事務所協会)
堯天 義久(兵庫県建築士会神戸大学名誉教授)
若林 實(日本建築総合試験所)
山田 稔(神戸大学教授)
日置興一郎(大阪府立大学教授)
山肩 邦男(関西大学教授)
大森 正男(日本建築材料協会)

63年度構造家懇談会支部総会挨拶

支部長 久徳敏治

一言ご挨拶申し上げます。

今回は構造家懇談会として最後の総会になりました。多少、惜別の情をもよおします。思えば昭和57年2月、70人の参画をえて、大阪大林ビルにて支部設立総会をもって、8年。その間に会員も増加の一途をたどり、各種の会の活動も皆様のご協力によって、盛んに行っていました。とくに昨年は国際化の波に呼応すべく、わが国において第3回日米構造設計協議会の開催、支部においても韓国のオリンピック施設の見学を兼ねた海外研修会と、その間口を広げてきております。ここに当会が発展的に一応解散いたしますのも、さらなる進展を期待してのことと存じます。今後共のご協力をお願いいたします。

(社)日本建築構造技術者協会

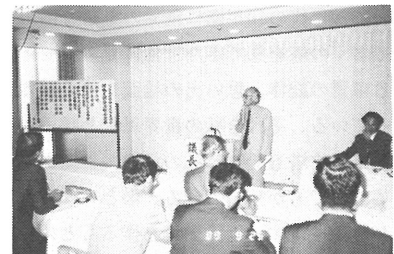
関西支部設立総会挨拶

支部長 久徳敏治

当会はやっとのことで法人化を達成し、ここに(社)日本建築構造技術者協会関西支部として、再発足することとなりました。思えば長い歳月を要しました。その間、多くの方々から、法人化の是非についてのご意見も頂戴いたしました。私個人といたしましては、私達はモラルと技術の向上を目指し、地位の向上をはかるためのベース・キャンプとして、構造家懇談会の根固めが是非とも必要と痛感し、法人化に勤めて参りました。その甲斐あって法人化を達成した今日、支部正会員の数も優に300人を越える勢力に至

っております。当会は今一歩も改まりましたが、法人化が目標ではなく、法人化が当会所期の目標を達成するための真のスタートとして位置付け、支部正会員、準会員が核となり、学会会員、賛助会員のご支援のもと、他の支部は勿論のこと、関東を中心とするグループとは一味異なったユニークな存在として、関西支部を育てて行くべく決意も新たに致しております。

会員皆様のご協力もお願いいたしまして、私の挨拶にかえさせていただきます。



矢野会長祝辞

本日は、構造家懇談会関西支部が発展的に解消し(株)日本建築構造技術者協会関西支部として設立されましたことをお祝い申し上げます。本日、総会・記念講演会・披露パーティーと行事が予定されていますが、ボランティアとして努力されている幹事の方々に心からお礼を申し上げますとともに、本日御出席の皆様にはウィークデーの昼間でお忙しいなかを熱心に参加していただき感謝いたします。

さて、構造家懇談会から(株)日本建築構造技術者協会に発展的に移行した経緯については、会誌等にも報告されており十分ご存じのことと思いますので、これからどうしていくか、ということについてお話ししたいと思います。

まず、会員数ですが3月末には1,365名を正会員として建設省へ申請いたしました。そして7月1日に社団法人として認可された時は、入会申込予定者を含めて2,000人でございます。さらに9月5日の理事会では2,289名が承認され、これに準

会員55名、名誉会員35名、さらに学会会員107名を含んでちょうど2,500名となっております。

さて、活動の方ですが、社団法人になったからといってあらためて変わるものではありませんが、これからより一層、社会に対して私どもの職能を知ってもらうキャンペーンが必要であります。そのために来年の6月7日から新宿NSビルでテクノフェアを予定しており、一週間にわたって子供達にもわかるものと企画しております。また、法人認可後正式なお披露目をしていないので1月25日に帝国ホテルで予定しております。

一方で、これから構造家という職業を広く社会に知ってもらうために、顕彰制度を実施し、これこそストラクチャル・エンジニア・構造家であるというものを明らかにします。また設計指針を検討することを既に始めております。

さて、当会にとって関西支部は極めて重要な支部であります。支部活動が活発



で早くより支部NEWSを発行されたり、各種の研究会・委員会を開いておられることにかねがね感心しております。この研究会が海外の建築視察にまで足をのばされたり、また親睦のために種々の会合・ゴルフ・囲碁同好会等をたびたび開いておられ、東京では出来ないことも次々と積極的に実行しておられ敬服しております。このような活発な活動により本部をより刺激して頂いて、当会が益々発展する上で大いに寄与して頂くよう希望いたしております。

本日の社団法人としての支部設立披露を心よりお祝い申し上げます。

記念講演を聞いて

記念講演は、原広司東大教授と金多潔京大教授によるもので、それぞれ「塔」をテーマにスライドを中心とした興味深い内容であった。以下にその一部を紹介いたします。

○ 原広司教授「塔の思想」

1970年代の10年間に世界の集落を回って多くの塔を見てきた。常に見慣れている風景の総体、思い出の場面や情景が残っている。それを私の世界風景と呼ぶ。今日話す塔もそれは私の世界風景であって、誰でもが持っている。塔というものが分かりやすい世界風景を作るものになっており、日常ランドマーク的に使いながら世界を自分なりにまとめている。新しい塔に接するたびにそういった世界風景が増えてくる。

(スライド)・アルジェリア7つの幻の小都市に建つモスク・アドリア海に面した岬に建つ塔・アフリカ農村の小さな塔の集まり・ユカタン半島のマヤ文明遺溝・ミースのスケッチ・キリコの描いた



塔 etc.

私の意識の中にある一群の塔は、何か呼びかけたい、呼びかけられたいという願望の現れとして建てられたのだと思う。

○ 金多潔教授「塔のテクノロジー」

エッフェル塔は今からちょうど100年前に建てられたが、高さが300mで約8,500tonの錬鉄を用いている。その鉄骨をむきだしにした構造は知識階級に大きなインパクトを与え、非難が集中したという。私の関わった京都タワーも同じような状況を経験した。

東京タワーはエッフェル塔の70年後に

鴻池組 榎原健一



建設され、材料はスチールを用いている。しかし使用鋼材量としては、強度増大分や装飾の排除という要素を割り引いても徹底的に合理化されており、我が国におけるテクノロジーの一つのピリオドといえる。一方京都タワーは、従来のタワーのような鉄骨トラスでなく、鋼板を曲面板として全溶接工法を用いたユニークな形式で、タワー建築のエポックをなすものである。

自分の経験から再開発のピリオドを考えると、今や我々の知識とテクノロジーを結集して、来る21世紀の大阪を塔で埋めつくす時であると考えている。

JSCA賞受賞によせて

(株)アスコラル構造研究所 村沢藤四郎
外村 静夫



一度位はJSCAで表彰される様な仕事をしなければ、常々思っていたのですが、そんな技量も機会もなく、仕事に忙殺されていたところ、突然委員の方から、「建築美の素材としてコンクリートフレームを用いた一連の構造設計に関する業績」としてJSCA関西構造家賞に推薦されましたとの連絡を受けて思わず戸惑ってしまいました。これは小生の独断と偏見ですが、まるでモグラの様に年がら年中土の中で、嘆き苦しみ乍ら真面目に構造を考え、仕事をしている構造技術者

達の代表としてならばと思ひ、身にあまる光栄だとは思いましたが、お受け致しました。

我が事務所は安藤氏をはじめ何人かの作家的な建築家との協同による仕事があるのですが、今回の受賞は安藤忠雄氏との一連の作品での評価でした。

安藤氏とのかかわりは、17年程前にタンジールの国際設計競技に参加された時に助人として、骨組みのアイソメを徹夜で描いたのが最初です。最近の安藤氏は超多忙で、こんな事はあまりないのですが、以前は突然電話が掛かってきて、今こんな事を考えているのですが、どうすれば…と、よく話しをしました。それから何日程かしてラフなスケッチを持って担当者が我が事務所に来られて、最初の構造打ち合せをして、構造の可能性や、我々の願望みたいなものを話し乍ら、建

築家の考えている事を推測する訳です。

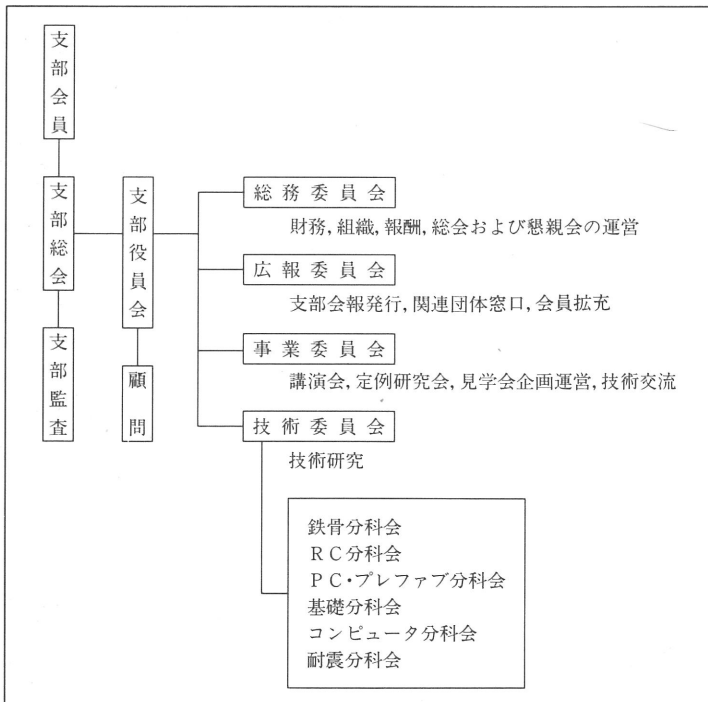
その時には、直感的な仮定断面をも話します。そして彼等が我々の考え方をかなりの時間をかけて、正確に咀嚼しながら、空間の構成をします。

何回か同じ様な打合せがあり、最後に空間性能から決まる絞り込まれたフレームの構成と断面の提示があり、建築家との葛藤が始まるのですが、物を宙に浮かす事以外なら、大概の事は出来るのではないかと考えています。悩み苦しめばそれだけ建物に反映され、緊張感も出てくる様に思います。

今回の受賞が、我々みたいなごく普通の構造技術者でも、きちっと仕事をすればそれなりに評価されるとなれば大いに励みにもなるし、我々自身にとっても、これを契機に更に努力する様にとの励ましと思ひ感謝しています。

(社)日本建築構造技術者協会関西支部組織および支部役員

●支部組織



●支部役員

- 支部長 久徳敏治 (竹中工務店)
- 副支部長 青柳 司 (日建設計)
- 技術委員長 能勢善樹 (能勢建築構造研究所)
- 副支部長 松谷輝雄 (鴻池組)
- 総務委員長 樋口元一 (大林組)
- 広報委員長 真塚達夫 (東畑建築事務所)
- 事業委員長 川崎福則 (川崎建築構造研究所)
- 事務局長 宇藤 功 (松村組)
- 幹事 岡田克幸 (昭和設計)
- " 柏木良雄 (熊谷組)
- " 須賀好富 (近畿大学)
- " 長田正雄 (長田建築事務所)
- " 林 保 (安井建築設計事務所)
- " 福嶋孝之 (長谷工コーポレーション)
- " 馬瀬芳知 (馬瀬構造設計事務所)
- 監査 岡嶋一仁 (大成建設)
- " 谷尾俊弘 (イオリ建築設計事務所)

技術委員会 分科会活動報告

鉄骨分科会

内田直樹

鉄骨分科会は建築鉄骨の設計・施工に限り無く愛着をもつ十数名のメンバーにより構成されています。活動の内容は
1)委員会形式の設計紹介や情報交換
2)新しい溶接技術や工事現場の見学会
3)鉄建協、全構連、溶接協会等外部団体との共同技術研究会や講習会等の協力の3つに大別されます。原則として2カ月に1回、定常的に活動をしています。「我こそは」と思われる鉄骨に関心をもつ会員の入会を心から歓迎します。

コンピュータ分科会

辻 英一

コンピュータ利用は、プラス面もマイナス面も含めて構造のすべに広く深く影響している。とりあえず、共通の実情認識をもつことを目的として、今年から「構造設計組織・歴訪シリーズ」を2カ月に1回開催している。

すなわち、分科会の全員が各社の構造・システム部門を訪問し使用コンピュータ・利用組織・プログラム・利用上の諸問題を紹介してもらって、そのあと、フリー・ディスカッションをしている。

共通の悩みもあり、教えられることも多い。当分の間、このシリーズを続ける予定である。

RC分科会

須賀好富

RC分科会ではRC構造の設計と施工に関するいろいろな情報交換を中心に勉強会をしています。鉄筋に関するもの、コンクリートに関するものなど材料・工法についてのものが主な内容です。場合によってはメーカー、開発者をお招きして一緒に討議することもあります。

情報は少しでも多い方が良いと思いますので、若い会員の方もどしどし当部会に積極的に御参加下さい。開催日はその都度定めています。

PCプレファブ分科会

松谷輝雄

PRC構造の設計指針がでて6年が経ちこの構造も一般化してきた。ファイバーストレスをコントロール出来るこの構造はロングスパンに対応可能な自由度の高い構造である。当分科会はPC・PRC構造の設計例の紹介を通して構造計画の創意性について会員同志の相互啓発を図っている。最近は工業化工法(プレファブ構造)にまでテーマを拡げて、13名の委員で分科会を奇数月の第3金曜日に開催している。PCに馴染みの無い方でも結構ですから参加して下さい。

基礎分科会

棚橋秀光

現在、会員14名で基礎・地盤関係をテーマとして2カ月に1回程度の会合をもって活動している。ここ数回は主に基礎に関するいくつかのトラブル例について会員より紹介があり討論をおこなった。

その都度関心のある話題をきめて開催している。次回は12月4日18時より設計例の紹介と懇親会を予定。基礎構造・地盤に関心のある会員諸氏の入会を歓迎します。連絡先日建設構造部棚橋または小林まで TEL06-203-2654

耐震分科会

金澤正明

活動休止中

■関西支部所属の本部技術委員会委員

技術委員会副委員長	青柳 司
〃 鉄骨部会	内田 直樹
〃 〃	勝丸 文彦
〃 〃	丸岡 義臣
〃 R C 部会	須賀 好富
〃 P C 部会	松谷 輝雄
〃 コンピュータ部会	辻 英一
〃 耐震設計部会	金澤 正明

支部の動き

- ・ 4/20 広報委員会
- ・ 5/16 ゴルフ同好会 於伏尾G.C
- ・ 6/6 広報委員会
- ・ 7/6 支部役員会 (旧理事会)
- ・ 7/19 技術委員会
- ・ 7/25 総務・事業合同委員会—設立総会の運営他
- ・ 9/19 支部役員会—設立総会、記念事業他
- ・ 9/25 支部設立総会、記念講演会、記念披露パーティ 於東洋ホテル
- ・ 技術委員会分科会
RC分科会—7/19 定例研究会の件
鉄骨分科会—5/10 建築鉄骨溶接口

ポットについて

コンピュータ分科会—5/25 和田建築
技術研究所、7/24 松村組
PC・プレファブ分科会—6/23、8/9
9/28、10/20

- ・ 9/7 JSCA構造家賞選考委員会

事務局よりのお知らせ

(社)日本建築構造技術者協会関西支部が設立されました。従前にも増して充実した活動を展開して行きたいと思っていますので、ご意見を事務局迄お寄せ下さい。
・ 11/18に囲碁同好会を開催します。ご希望の方は世話人(山田裕治 TEL06-779-6844)迄ご連絡下さい。初心者の方も歓迎との事です。

編集後記

法人化後の支部報第2号として、支部総会の特集号をお届けいたします。総会での矢野会長のご挨拶にもあるとおり、関西支部の役割は重要であり、また本支部報もそれなりに評価されていることは広報委員会としても喜ばしいことと考えております。

今後、会員の一層の交流の一手段として会員紹介の継続他、広報活動を活発にするよう努力したく、会員諸兄皆様の御支援御協力の程お願いいたします。(長谷川・柏木担当)

発行(社)日本建築構造技術者協会関西支部事務局
川崎建築構造研究所 TEL06-231-3112